

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 秀光中等教育学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒983-0045

仙台市宮城野区宮城野2丁目4-1

E-mail shukohms@sendaiikuei.ed.jp

Website http://www.sendaiikuei.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 112 名 女子 93 名 合計 205 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は「至誠・質実剛健・自治進取」を学校理念としている。ESDを地域から世界の現象に目を向ける学習機会と捉え、ESDの実践を通して自ら学び、自らで発信・行動する力の育成を目標とした。

具体的には、国際理解と学問の探究を柱に①リーダーシップ研修、②語学研修、③異文化理解に係わる学習 ④学問の探究に係わる活動と学習、を行った。

① リーダーシップ研修に係わる活動

2学年次にリーダーシップ研修(ワールドピースゲーム)を実施し、問題発見・解決能力、他との協調力、英語力の育成を行った。

4学年次にはカナダを訪れ、2週間の寄宿舎生活を世界各国から参加している生徒と一緒に送りながら、グローバルリーダーの資質の育成に励んだ。ボランティア活動などの様々な活動を通して、自ら学び、自らで発信・行動する力を育成した。

② 語学研修に係わる学習

2学年次での「ワールドピースゲーム」では英語による討論や発表などを含み、4学年で行われるカナダ研修に向けた基礎的語学力の育成と定着をも目指している。

4学年次でのカナダ研修は、全てが英語で行われるため、今まで培った語学力を実践的に活用する機会であった。ここでの経験を通して、受験に対応する力だけではなく、実際に活用するための語学力を高める学習も促した。

③ 異文化理解 に係わる学習

4 学年次のカナダ研修に向け、事前にカナダについての学習を「総合学習の時間」を活用して行った。カナダの物理的な事象のみではなく、どのようにして多民族文化を形成し、維持しているのかなどについても学習した。また、現地では他国からの生徒との交流を通して異文化理解を深め、また彼らとボランティアなどの活動を共に行う過程で、他との協力やリーダーシップの意義を学んだ。

5 学年次には京都では、異文化を知るには自国の文化を知ることが必須であることを念頭に学習を行った。京都研修を通し、これまで行ってきた海外研修で学んだ異文化との相違や類似を発見し、日本文化についてより深く学んだ。

④ 学問の探究 に係わる活動と活動

来年度から、4 学年次には国際バカロレアのカリキュラムに沿ってプロジェクトを実施するため、今年度は3 学年次にその前段階の学習を行った。調べ学習を中心に、各自が目標を設定し、個人の興味を反映した課題について学習を開始した。

5 学年では論文を執筆した。各自がそれぞれの進路や興味ある問題に関して調べ、各自の主張を根拠とともに述べる 8000 字の論文を作成した。また、その論文を1 枚のポスターにし、投票形式のポスターセッションを行った。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|--------------------------------------|---|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(放課後や家庭での自由時間) | |

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

国際バカロレアを導入している本校では、ESD が目指す教育の一環として、世界の発展と支援が国際的に行える人材の育成に力を入れている。生徒が自発的に学習し、行動することができる資質を身につけ、そのうえで教科や行事を通して修得した知識を横断的に活用して自らの課題を設定し、他の生徒の主張も尊重しながら、自らの主張を発信できる力を習得する。

国際バカロレア、Middle Year Program の終了学年に当たる 4 年次（高校 1 年）と後期課程の 5 年次には、学習の集大成としてプロジェクトを完成させる。各教科や行事においてはそれぞれの目標に加え、プロジェクトを完成させるために必要な知識や資質の育成も目標に定めて行われている。自己管理能力や教科横断的な知識、コミュニケーション能力など総合的な力の育成を目標としている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

国際発展に貢献できる人材の育成を目指し、国際バカロレアのカリキュラムを導入した。そのカリキュラムに沿い、教員が変わっても常に質を保った指導ができるよう、ユニットプランや指導の方法、テスト形式、評価方法、評価規準に至るすべてを統一し、次年度以降に引き継いでいく方法をとっている。

全教員が国際バカロレアの教育方法や理念を理解し、実践できるよう毎週、教員のための研修会を開いている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

生徒に対する評価は、国際バカロレアの評価規準に基づき絶対評価で行う。複数の教員による評価を実施し、教員間の標準化を促している。評価には世界の発展に貢献できる人材に関する測る指針もある。また、国際バカロレアによる外部評価を定期的に受け、国際的な基準に沿っているかどうかの判断をしていく予定である。

本校が行っている評価や授業は、既存のものとは大きく異なるため、事前の研修や授業に対する事前の準備を入念に行わなくてはならない。また、テクノロジー機器の使用や英語での授業を抵抗なく行うことができる人材を育成するため、研修の機会を設ける必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

5年次に8000字論文の発表を行い優秀者はスライドを使い口頭発表を行った。また、5学年全員が自らの主張を1枚のポスターにまとめ、ポスターセッションを行った。自ら設定した課題に対して自らで計画し、行動する力が身についた。また、教員や保護者、生徒からの質問や口頭発表を通してコミュニケーション能力を高めることができた。

学校で学んでいる事柄を地域や世界の事象と結びつける力が身に付き、グローバルな視野を育成することにつながると考える。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

カナダ研修では、「パワフルユース」主催のリーダーシップ研修に参加することで、協調性、計画性など様々な資質の育成を図り、国際的に活躍できる人材に必要なリーダーシップを身につけるよう励んだ。

国際バカロレアを導入している大学や高校、中高一貫校と連携し、国際的な視野に立ち、世界の発展に寄与できる人材の育成に努めている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

東北大学と連携し、「サイエンス・コ・ラボ」という名で科学実験教室を行っている。社会で起きている現象などを題材にすることで、学問の広がりを感じることができる講座である。また、大学での高度な勉強への意識付けにも役立っている。

京都研修では京都大学において特別講座を行い、最先端の研究に触れる機会を設けている。最新の世界的な研究に触れ、グローバルな視野を持つことができる。

海外の国際バカロレア認定校と姉妹校提携を結び、交換留学や短期留学などを通して交流を行っている。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

学習指導要領に則るとともに、ユネスコスクールの推奨する ESD を実践的に行うことを目指している。国際バカロレアの導入している本校では、このような点に留意して研修を進めた結果、全教員が統一された方法論をもとに授業を改訂し、生徒を主体とする授業展開が実現できた。また、生徒も自己の考えや行動を振り返りながら次のステップが踏めるようになり、能動的な学習を実践できるようになった。

また、IT 機器設備を充実させ、使用頻度を高めることで、授業を効率的に展開することができた。生徒も自らの IT 機器活用能力を高め、能動的な学習を行いより深い理解が得られた。

リーブリックによる評価により、教科の点数のみに頼らない、多面的な評価ができるようになり、生徒のモチベーションを上げることに繋がっている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度は国際バカロレア実施 3 年目の年であり、全学年が国際バカロレアのカリキュラムを実施できなかった。来年度は 1 年次～4 年次で国際バカロレアの授業が展開される。今後、全学年において国際バカロレアの規準に基づく学習を行うべく、毎週、教員のための研修が行われている。

【予定活動】

- ・ 1 学年～4 学年における国際バカロレア教育。
- ・ 2 年次のワールドピースゲーム実施。
- ・ 3 年次、4 年次のカナダ研修におけるリーダーシップ研修。
- ・ 4 年次におけるプロジェクトの実施と完成、またその発表会。
- ・ 5 年次における 8000 字論文の作成・ポスターセッション。
- ・ 5 年次における京都研修。